



# FormとKIITO デザインの居場所

【連載企画】神戸ぐらしはじめました。／○○さんの神戸めし：見寺貞子さん／世界のデザイン都市ガイド[クリチバ]

# FormとKIITO

## デザインの居場所

### FormSWISS

イタリア語、フランス語、ドイツ語など異なる言語圏を抱える多言語国家のスイスでは、複数の言語を併記する必要もあって、スイス・スタイルと呼ばれるデザイン様式をつくりあげてきた。現代のスイスでは、トップレベルのクリエーターが講師陣として集まり、高いレベルの教育を推進するローランヌ州立美術大学（ECAL/Ecole cantonale d'art de Lausanne）、スイスのデザインを考え実践する、世界中から注目される書体デザインスタジオ Swiss Typefaces（スイス・タイプフェイシズ）など、国際的にも注目を集めてきたスイス・スタイルを受け継ぎながらも、新しい世代によるデザインの潮流が生まれている。「FormSWISS」では、多分野のクリエーターをはじめ、教育機関、美術館など、現地で取材した、彼らの実践をケーススタディとして資料や作品とともに紹介する。

### ひと足先に「FormSWISS」東京展をレポート！

文／近藤健史（KIITO）

2020年10月23日から11月3日の期間に開催された「FormSWISS」東京展。原宿と学芸大学の3会場を、デザインの美しさや機能、領域、ライフスタイルについて考えながら会場を巡りました。それぞれの会場の床にはブロックと展示物が置かれ、ブロックの上を歩きながら展示物を見るという行為に、ふと建築を勉強していた学生の頃に、写真や資料を床に並べてあれこれと並べ替えながら考える思索の時間を思い起しました。一番小規模な会場である、丸山新さんのデザインスタジオに併設されるFormGALLERYでふと立ち止った作品があります。南スイス・イタリア語圏のルガノを拠点にするデザインスタジオ「ヤヌッчи・スミス（Jannuzzi Smith）」のパオロ・ヤヌッчиによる、大胆なヒヨウ柄のネックストラップと2冊のカタログ。それは、ロカルノ国際映画祭のプランディング紹介でした。映画祭としての存在感や力強いビジュアルコミュニケーションが求められる一方で、来訪する23万人もの映画関係者やプレス、投資家が感じる祝祭感だけでなく、1万5千人の住民がロカルノへの誇りと愛着を感じられるアイデンティティを創出。彼のデザインは、展示されていたカタログやネックストラップなのではなく、映画祭とロカルノの人たちとの関係性のデザインであることが、映像で紹介されていたインタビューを通して心に残りました。



### Formとは

現地で行うデザインリサーチをベースに、多様な価値観をデザイン的視点から紐解き、よりよい未来のあり方をともに考え、かたちづくっていくためのデザインプラットフォーム。その第1弾として、モダンデザインの発展に貢献したデザイン大国スイスに焦点を当てた。

### FormSWISS展

2021年3月13日(土)～3月28日(日)

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)

11:00～19:00 \*月曜休 \*入場無料

主催：&Form LLC、デザイン・クリエイティブセンター神戸

あなたにとつてデザインとは何でしょう。デザインは決してわかる／わからないというものではなく、私たちの日常の中に寄り添い、すぐそばにあるものです。デザイン・クリエイティブセンター神戸では、現在進行形のスイスのデザインとそのデザイン思考にフォーカスした展覧会「FormSWISS」を開催します。人々の暮らしや街の中に当たり前のようにデザイ

### 神戸ぐらしはじめました。

神戸への移住、最近増えているそうです。  
神戸に越して間もないあの人、気になる質問をぶつけてみました。

11人目

中川恵理子さん  
(KAVC 美術事業アシstant)  
原田進歩さん  
(花屋勤務)  
神戸歴：3ヶ月(取材時点)



#### 不便さも楽しむ、遊び心のある暮らし

「帰りたくなる家」「和室のにおいのある家」に住みたいと、見晴らしのいいマンションでルームシェア

生活を始めた中川さんと原田さん。大学からの知り合いだった2人は、卒業後、互いに神戸で仕事を始めたことから急接近。深夜のサイゼリヤでのミーティングの末、この物件でのシェア暮らしを決断。自分たちでマンションを「ジム」と名付け、坂道を歩くベース配分をトレーニングのように考えたり、よく出会う野良猫に名前を付けたり。少々の不便さも楽しみに変えて、暮らし始めています。初めてのルームシェアながら、歩くベース、好きなものの、生活スタイル…といった互いの違いをゆるやかに受け入れて、それぞれの心地よい関係を構築。そんなお2人の趣味のひとつをご披露するなら、原田さんは散歩中の犬を写真に撮ること、中川さんはナスを切ること、だそう。のびのびとした暮らしぶりが伺えます。



### 見寺貞子さんの 神戸めし

TRATTORIA LAPPOLAの「たっぷり魚介ラグーと大葉のペーストのオイルソースパスタ」



普段からよく外食をするという見寺さん。コロナ禍でその回数が減ってもこのお店だけはよく来ているのだそう。というのも、同じ大学で教える教授とディナーに訪れては日頃の疲れを癒やすのだと。ゆったりとした時間が流れ、リラックスできる店内はとても安心できます。ランチはこの日初めてだったので、料理人との会話を花開。その過程で、美食と愛という果てしない二つの欲望の罪深さが描かれたブラック・コメディです。

### 答えてくれた人

Guilherme Zuchettiさん

クリチバ市国際担当官として、ユネスコ創造都市ネットワークの中心的な役割を担う。コミュニケーションと土木工学を修め、クリチバ市の国際化戦略と合わせ、気候変動対策、教育や能力開発、イノベーション、ビジネス開発、誘致活動を幅広く推進している。

### 5問でわかる 世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何？世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第18回は、人間中心の都市政策と環境都市として注目を集めるブラジル・パラナ州の州都クリチバから。

#### Vol.18 ブラジル・クリチバ | Curitiba

- クリチバはランドマークや名建築があふれ、国際的にも知られるデザイン事務所がたくさんあります。中でも、首都・ブラジリアで主要建築の多くを手掛けたニーマイヤー自身のデザインと近代美術を収蔵する「オスカー・ニーマイヤー博物館」は、目の形をした象徴的な建物から「目の博物館」とも呼ばれています。
- 料理人を主人公にした『イブクロ／ある美食物語』です。田舎者の主人公が、無錢飲食をした小さな食堂で働き始めるところから料理人としての才能を開花。その過程で、美食と愛という果てしない二つの欲望の罪深さが描かれたブラック・コメディです。
- 創造性とデザインを活用することで、パンデミックとの戦いに役立つソリューションを開発できることに驚いています。私たちのファブラーで製作されたフェイスシールドは、医療従事者、警察などで活用されています。
- 現在、クリチバの国際化戦略を推進する計画を取り組んでいます。この経験は素晴らしいものであり、とてもやりがいのある仕事です。
- デザイン=超越。英語ではTranscending、ポルトガル語ではTranscendenteです。



今号のデザイナー | &Form 東京を拠点とするビジュアルコミュニケーションデザインスタジオ。グローバルデザインプラットフォーム「Form」を運営。www.andform.jp

### KIITO NEWSLETTER VOL.031

2020年12月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、  
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)が  
年4回発行する情報誌です。  
センターのコンセプトである+クリエイティブな  
活動を発信しています。

発行：デザイン・クリエイティブセンター神戸  
編集：竹内厚[Re:S]  
デザイン:&Form  
写真：丸山新(表紙写真)、堀田貞雄(東京展会場写真)  
http://kiito.jp/

### KIITO:

#### ACCESS

阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より  
フラワーロードを南へ徒歩20分  
国道2号線を超えた神戸税關東向かい  
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分  
ボートライナー貿易センター駅より徒歩10分  
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

#### CONTACT

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)  
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4  
TEL: 078-325-2235  
E-mail: info@kiito.jp  
開館時間: 9:00～21:00  
休館日: 月曜日(振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29～1/3  
http://kiito.jp/



### FormとKIITO

# まちとデザインのいい関係を考える

「FormSWISS」展を主催する丸山新さんがスイスでの活動やリサーチを通して目にしたこと、感じたことを伺いながら、デザインの観点からKIITOと神戸のこれからについて話し合いました。

Form主宰、デザイナー 丸山新 KIITO副センター長 水田宏和

街にデザインが当たり前のように浸透しているというスイスの様子、日本にいるとなかなか実感することができません。たとえば、どのような状況なのでしょう。

丸山 私がスイスで暮らしていた頃、仕事場はルガノという街にありましたけど、住んでいたのはブルジーノという小さな村でした。そんな人口150人くらいの村でも住民たちの意識は高くて、たとえば、村のメインストリート（といっても300mくらいですけど）に、2軒のカフェと1軒のホテルがあって、そこでは住民以外は車で通ることができないという条例が定められていました。湖畔の村なのでその景観を守るためにあります。あるいは、村のゴミ箱のデザインや使い方を再検討するとなったら、デザインは住民たちの投票で決まるし、そのタイミングで、出すゴミの量で税金を変えるということが起こっていました。暮らしている高齢者から若者まで日常にデザインが根付いているなと感じました。

水田 KIITOは「社会課題にデザインを」という考え方のもと、仕組みや場をつくろうとしていますので、今日の対談は、神戸の街にも関係する、さらには、参考や指針になると思いますが、日本で街並みや景観の議論になると、京都の町家を筆頭に特定の歴史的街並み保存地区の話になってしまふことが多いです。ヨーロッパとは歴史的な経緯も違うので一概には言えませんが、どうなのでしょう。スイスのような街との関わり方や、日常的な暮らしの中にある街並みを豊かに整えるような議論は日本ではできないものでしょうか。丸山さんも今は東京に事務所を構えて、同じようなことを感じいらっしゃいますよね。

丸山 日本には美しい景観はたくさんありますけど、永田さんが言われるように日常の延長ではなく、特別な場所として扱われてしまっています。つい先日も行政からデザインの講義を依頼されました。若い担当の方が「今日はすごく緊張して来ました。デザインのことが全然わからないんで」ってお話しするんです。たしかにデザインは色や形、意匠の要素も大きく、日本の美術教育の影響から苦手だという意識が生まれてしまうと思うのですが、行政の方たちが行われている仕事はいかに市民とのコミュニケーションを円滑にするかだったり、全体を整えて構想してプロジェクト化することだったり、まさにデザインの仕事だと思います。ところが日本ではデザインという言葉は、多くの人の日常には関係ないものになってしまっている。もったいないですよね。

丸山新

ベネトンのFabrica研究生を経て、2002年渡英。セントラル・セント・マーチンズ美術大学コミュニケーションデザイン科にて学士号を取得後、イギリスにてハンズ・ディエター・ラハイドに師事しPhaidonのプロジェクトに参加。2006年、スイスのキアッソ市立美術館のアートディレクターに就任。南スイス州立大学SUPSIのデザイン・コラボレーターを経て2012年に帰国し、&Formを設立。Form主宰。

水田宏和

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)副センター長、NPO法人プラス・アーツ理事長。「+クリエイティブ」をコンセプトに、防災や教育、まちづくりといった様々な分野の社会課題解決に取り組む。企画・プロデュースの仕事に、楽しく学ぶ防災訓練プログラム「イザ！カエルキャラバン！」、子どもがつくる子どものための夢のまち「ちびっこうべ」などがある。

最近の気になること

体験すること。オンライン環境が加速し、どこでもあらゆる情報がすぐに手に入る一方で、やはりリアルだけでしか手に入らない体験があることを改めて感じています。

神戸を拠点にするKIITOでこれからやっていくこと、やるべきことはどんなことだと考えてますか。

丸山 これまでやってきたことを変えるわけではないし、変えることを要求されているわけでもないですが、みんなが豊かになれる仕組みづくりとセットで、街の中にどういう場を設えていかがこれから課題かなと思っています。空間的な豊かさですね。そのときに、次の若い世代の人たちとコラボレーションしながら、その人たちにどうチャレンジさせていくのかが重要になりそうだと思いません。まさに教育の話になりますけど、「FormSWISS」では、スイスの田舎町に建築の大学をつくったマリオ・ボッタ(Mario Botta)さんを紹介されてましたね。世界から優秀な人が集って若き才能を輩出する、そのような活動が10年、20年のスパンで街に対しても効いてくるだろうなと思いました。

水田 KIITOでは様々な社会課題にアプローチして、プロセスに重きを置き、そのアプローチ手法そのものがデザインですよと言ひながら9年間やってきました。最近ではそれゆえの悩みもあって。例えば、建築を学ぶ学生の中には、空間をデザインすることを放棄する人も出てきていると聞いています。つまり、贅わいがあればいいと考え、広場の設計をきちんと考えず、イベントの提案でごまかしてしまう。日本でもだんだんとコミュニティデザインが市民権を得てきたのはいいことですが、一方で、そのベースとなる空間デザインを置き去りにしてしまう傾向はいかがなものかと思っています。

丸山 その問題もありますね。デザインわかりません、興味ありませんという人たちの一方で、デザインは誰でもできます、何でもできますという言い方。どちらも違うのです。

水田 スイスの状況を見ていると、専門性を有するデザインとコミュニティデザインのような市民の豊かな取り組み、両方がとても高いレベルで街に広がっているよう、とにかく、うらやましく思うがないなって(笑)。

丸山 同感です。スイスでデザインに関わっている人たちは専門性がきちんと担保されています。ナイキのクリエイティブディレクションにも関わっている「スタジオ・フェイクセン(Studio Feixen)」にしても、ロカルノ国際映画祭のデザインディレクションを手がけている「ヤヌッチ・スマス(Jannuzzi Smith)」にしても。これが日本だとプロデューサーやクリエイティブディレクターといった肩書きの人が出てきて、デザインまでやってしまうことがよくあります。

そういう人がアカデミックな修練をまったく経てなかったり。

水田 教育の問題もありますね。

丸山 それは大きいですね。そして、人としての軸。スイスでは、デザイナーである以前にそれぞれのクリエーターに人としての強さを感じました。人としてどうあるか、何を伝えようとしているか。

丸山 わかります。掲げるビジョンがなければデザインだって成立しませんよね。

水田 KIITOには開館以来掲げてきた「みんながクリエイティブになる。そんな時代の中心になる。」というスローガンがあります。コピーライターの岡本欣也さんにつくっていたいたのですが、さらりと言ひながらこれが的を得ているなと最近あらためて思っています。子どもや高齢者とのプロジェクトをKIITOで積み重ねてきて、たとえば、家でやることがなくテレビばかり見ていたおじいさんが、パン作りを学んで街で活躍するようになって、おしゃれにも

最近の気になること

コラボや掛け合わせが周囲でたくさん起こっています。自動車メーカー(ディーラ)×防災教育だったり、リアル脱出ゲーム×防災(感染症対策を含む)をテーマにしたイベントが日本科学未来館で開催されたり…。



1 スタジオ・フェイクセンによる「Nike Air Max」ポスター・キャンペーン。



2 ヤヌッチ・スマスがディレクションを手がけたロカルノ国際映画祭。



3 マリオ・ボッタが創設したメンドリオ建築大学。



## KIITO: NEWS & TOPICS / 2020 Winter

### What's on

「ちびっこうべ」の舞台はKIITOの外へ！

子どもたちの創造性を育むことを目的に、2年に1度開催してきたKIITOのメインプログラム「CREATIVE WORKSHOP ちびっこうべ」。今年度は神戸のまちでのワークショップや、映像コンテンツの配信を行うなど、これまでのゆめのまちをつくるプログラムからさらに発展した新たな展開を予定しています。KIITOを飛び出すことで、より身近になる「ちびっこうべ」のコンテンツをお見逃しなく！

### 「ちびっこうべ2020」

2020年11月～2021年3月

主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸  
イベント詳細は以下よりご覧いただけます。



©坂下丈太郎

### News

#### KIITOの中庭で暮らす土づくり。

KIITOでは館内の景観づくりのため、アーティスト・ユニット(生意気)を講師に迎え、中庭づくりのワークショップを行ってきましたが、この度、その中庭の一部をリニューアルすることに。都市型農業の新しい形をつくる(sky cultivation)チームと協働し、植物の植え替えや整備に加えて、身近な食事や環境について考えるため、生ごみや落ち葉をたい肥化し利活用するコンポストをつくります。新しい中庭の姿をどうぞ楽しみに！



セルフ・ビルト・ワークショップ  
KIITO de Cultivation  
「中庭を活用した土づくりと  
都市型農園の新しいかたち」

2021年1月16日(土)、24日(日)13:00～17:00

会場：1F中庭  
講師：高橋渕(COL.architects)、  
原田真二(Harada Tradings)、藤本計司(庭計)  
主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸

### Report

#### 不在という環境下でのパフォーマンスの試み。

振付家、ファッションデザイナーなど異分野のクリエーターが集まり、プロジェクトベースで創作や発表のかたちを探っているXhiasma Project。2020年2月～3月にKIITOで滞在制作を行った作品はコロナ禍で公開が叶いませんでしたが、それをチャレンジの場と捉えて、オンラインと実会場で鑑賞するインスタレーションパフォーマンスを新たに発表。鑑賞行為を拡張する創作の機会となりました。



©守屋友樹

KIITOアーティストサポートプログラム  
Xhiasma Project #003『site』

2020年9月19日(土)～11月23日(月・祝)

会場：1F 北玄関、オンライン特設サイト  
コンセプト・演出・出演：湯浅永麻(振付家・ダンサー)  
コンセプト・演出・技術：遠藤豊(LUFTZUG)  
主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸  
キアスマ実行委員会